

魅力的な地域生活空間の創出と 観光の健全な発展

Developing community-based sustainable system
for the built environment and tourism



堀田 祐三子 HORITA Yumiko

教授
Professor

専門領域 Areas of expertise

- 都市計画
Urban planning
- 都市政策
Urban policy
- 住宅政策
Housing policy
- 住民参加
Community collaboration

主な担当科目 Subjects

- 観光まちづくり論
- 観光学総論
- English Lab



研究活動 Research

生活の基盤である住宅と都市・地域空間を、安全・安心で、快適かつ魅力的なものとするために、人と空間の関わり方や空間のつくられ方、社会システム、政策について研究を行っています。観光研究については、観光を人間の自己成長や他者理解に大きな影響を与える活動として捉え、その発展と現代社会との関係を探求しています。

1. 魅力ある居住空間再生のあり方に関する研究

人口減少が進むなかで、農山村の集落機能の維持にとどまらず、都市においても生活機能や人とのつながりを維持していくことが難しい現状があります。こうした問題と解決方策について、住まいとコミュニティという観点から探っていきます。



都市観光の諸相I
(バーミンガム 運河の再生)

2. 観光まちづくりのあり方に関する研究

観光の対象となる非日常空間と、人びとの仕事や生活の場である日常空間との関係について、空間の創られ方と人びとの関わりや認識の観点から分析します。主として生活空間が観光の対象となるようなケースや都市観光を対象としています。「楽しさ」「楽しみ」を基軸としてつくられる社会関係や空間の特性に着目します。



都市観光の諸相II
(ブタペスト 恐怖の館)

3. 観光の健全な発展に関する研究

私たちの生活のなかで観光という活動がもつ意味を労働との関係において捉える研究を行っています。観光は国力向上や衰退する地方経済を活性化する手段として大きな期待を集めているため、観光をする人への期待はどれだけ「消費」をしてくれるかに偏りがちです。しかし観光は人間の自己成長や他者理解に大きな影響を与える活動であり、それは生き方の選択にもつながりうるものです。そうした観点から観光という活動を捉えなおし、健全な社会の発展に資する観光のあり方を探ります。



観光まちづくり (由布岳と金鱗湖)

4. 住宅研究

「住まい」および「住む」ことに関わる諸問題について研究を続けています。住まいの確保や維持、地域の構成要素としての住宅、そしてそれを基盤に構築される人と人の関係性、住まいをめぐるあらゆる事象が研究対象です。

具体的には、イギリスの非営利組織による住宅供給や日本の中古住宅市場、空き家問題、移住促進政策についての研究を行っています。



住まいと観光
(マテラ 洞窟居住のまち)

ゼミ活動 Education

専門演習Iでは文献講読、研究プロジェクト、論文を書く訓練等を、専門演習IIでは、主として卒業研究と卒業論文の作成を行います。ゼミでは学生の主体的な関与と関係者間のコミュニケーションを重視しています。週1回の専門演習に加えて、学生の自主運営によるサブゼミを行っています。



ゼミ・フィールドワーク (2022 USJ)